

# 「代わり」

—初稿—

2024/6/16

脚本 太郎

〈人物表〉

雲井嵐	(15)	雲井家長男。嵐の兄。
雲井凧	(15)	嵐の妹。火事で死亡する。
雲井風花	(38)	嵐と凧の母。凧を溺愛している。
警察官A	(35)	

ログライン

母親から死んだ妹の格好をすることを強要されていた雲井嵐が、それに歯向かうも、結局は力で抑え込まれてしまう。

ねらい

修羅場つばいシーンを書く。

1. 雲井家・全景（夜）

雲井家（一軒家）が激しく燃えている。家の前には消防車と救急車。やじうまが周囲を囲んでいる。

担架に乗った雲井嵐（15）が救急隊員たちによって救急車に担ぎ込まれようとしている。

雲井風花（38）がやじうまをかき分けて救急車の方に駆ける。

風花 「嵐……嵐っ！」

風花が嵐の前に到達する。

風花、絶望したような表情。

風花 「嵐……」

嵐 「母さん……」

嵐、風花を見上げる。

風花 「嵐は……嵐はどこ？」

嵐 「ごめん……」

嵐、申し訳なきように燃える家を見る。

風花 「嘘……」

風花、その場にへたり込む。

2. アパート・雲井家の部屋・リビング（朝）

戸棚に置かれたカレンダーは六月のページ。

テーブルについて朝食の食パンを食べている嵐。

女性用のウィッグと衣服類を持って部屋に入ってくる風花。

不審そうに風花を見る嵐。

風花 「ねえ、嵐」

風花、衣服を椅子に置くと、嵐に女性用のウィッグを渡す。

風花 「そのウィッグ、被ってみて」

困惑する嵐。

風花、一度無表情になり、嵐の頭にウィッグを被せる。

嵐、驚きの表情。

風花、几帳面そうな様子でウィッグを整えると、嵐に女性ものの洋服を渡す。

嵐 「ちよっ……何？ どういうこと？」

風花、有無を言わせぬ表情と口調で言う。

嵐 「いいから。着てみなさい」

気圧された様子で着替える嵐。

一転、にこやかな表情になる風花。

風花 「やっぱり似合うじゃない！ 嵐にそっくり……さすがは兄妹ね！」

溜まらないといったように嵐を抱きしめる風花。

しばらくそうした後離れる。

嵐 「ね、ねえ……もういい？ 取るよ？」

ウィッグを外そうとした嵐の手を押さえつける風花。

嵐 「かあ、さん……？」

数秒、風花が無表情に嵐の目を見つめる。

その間両者沈黙。

風花、仏壇の遺影を手にとると、嵐の方を振り返り、優しく微笑んで言う。

風花 「ねえ、嵐。久しぶりに、お母さんと一緒にお買い物行きましょうか？」

### 3. アパート・雲井家の部屋・リビング（朝）

戸棚に置かれたカレンダーは七月のページ。

仏壇の遺影が嵐のものではなく嵐のものになっている。

風花が仏壇に線香をあげているところで、嵐の格好をした嵐が部屋に入ってくる。

風花が振り向き、笑う。

風花 「おはよう、嵐。今日は嵐の命日ね」

嵐、無表情。肩が少し震えている。

× × ×

仏壇に手を合わせている嵐と風花。

風花 「ごめんね、お母さん、最期に一緒にいてあげられなくて」

嵐が手を戻し、風花を睨む。

風花 「本当にひどい火事だったわよね。嵐のことは本当に残念だったわ。でも……」

風花、手を戻して振り返り、嵐に笑いかける。

風花 「あなただけでも助かって、本当に良かったわ……風」

嵐 「ねえ、母さん。もうやめようよ」

風花 「え？」

嵐 「(舌打ちして) 風は死んだんだよ」

風花 「何を、言ってるの？」

嵐 「火事で死んだのは嵐じゃない……風だ。ぼくは母さんが大好きな風じゃない。長男の嵐の方なんだよ！」

風花 「い、意味が分からないわ……風だったら、突然何を——」

嵐 「風じゃねえつつつてんだろうが！」

嵐が思いつきり壁を殴る。

風花 「きやあつ!? お、落ち着いて! ご近所迷惑だから、そんなに大きな声出さないで！」

嵐、少し息を整えた後、話を再開する。

嵐 「母さんがどれだけ、ぼくより風の方が大事だったにしろ、そんな想い現実の前では何の価値もないんだよ! 風が死んだのは事実なんだ! 変えられないんだ!」

風花 「な、風……」

嵐 「だから風じゃねえつてんだよ! アンタ母親だろ? 頼むからもつとしっかりしてくれよ!」

嵐、遺影を叩き落とす。

風花 「何するのよ!」

嵐 「うるさい!」

ウィッグを脱ぎ、床に叩き付ける。

風花 「やめて!」

嵐 「うるさい、よく見ろよ!」

風花に顔を近づける嵐。

嵐 「ほら……母さん、この顔が本当に風に見えるの? ねえ!」

風花 「いや……お願いやめて……」

目を瞑り、嵐の顔から目を背ける風花。

嵐 「ほら、目を逸らしてないでしっかり見てよ母さん。ぼくの顔をさあ！」

耳を塞ぎ身をかめる風花。

風花 「やだやだやだやだやだ見たくない聞きたくないやだやだやだやだやだ——」

嵐 「ねえってば！これが本当に風の顔に見え——」

風花 「嫌だっって言ってるのよ！」

風花に首を物凄い勢いで掴みかかれ、壁に背を打ち付ける嵐。

風花の手を嵐の手が握り返すが、離れない。

嵐は息を詰まらせ、直後にせき込む。

風花 「あああああああああああああしいいいいいいいいいいいッ！」

嵐 「……かあ、さ——」

風花 「偉っそうに説教してんじゃないわよ親に向かって！」

風花の嵐の首を絞める力が強まる。

風花 「元はと言えばアンタのせいじゃない！アンタが風を置いて逃げたから……アンタがもっとしっかりしてればこんなことにならなかったんだ！」

嵐の目が一段と見開かれる。

風花 「お前が風を殺したんだ。全部お前のせいなんだ死んで詫びろ。死ぬ死ぬ死ぬ死ぬ死ぬ死ぬ」

風花の手を掴んでいた嵐の手から力が抜け、グツタリと垂れ下がる。気絶してはいない。

風花の手の力が弱まることはない。

× × ×

嵐は呆然と立ち尽くしている。その頭には無造作にウィッグが載せられている。

風花はキツチンに向かってゆっくりと歩く。その足取りはヨタヨタと、どこか覚束ない。

風花 「さて、と。もうこんな時間だし、朝ご飯の用意しちゃうわね……風？」

風花、笑顔。

返事はなく、風花の表情は不機嫌そうになる。

風花、落ちていた遺影を蹴飛ばす。

風花 「(ボソリと) あっちはそもそも産まなきや良かったんだわ」

#### 4. アパート・全景(昼)

アパートの前にはパトカーが複数台停まっている。

#### 5. アパート・雲井家の部屋の玄関前(朝)

数人の警察官がいる。

警察官Aが呼び鈴を押す。

警察官A 「雲井さん、いらっしやいますか？ ご近所から異臭がするとの通報がありました」  
数秒待っても返事がない。

警察官Aがドアノブをガチャガチャすると、鍵が掛かっているようで、ゆっくりとドアが開く。  
漂っていた異臭がより一層強くなり、全員思わず鼻に手を当てる。  
家の中に踏み込む警察官数人。

#### 6. アパート・雲井家の部屋・リビング(昼)

嵐は風の格好をさせられたまま縛られ、顔には、お面のように輪郭を切り取られ、目と口に穴を空けた風の顔写真が被せられている。

口には何か腐った食べ物が押し込まれている。

風花はキッチンで料理をしており、その食材はすでに腐敗している。彼女の目の焦点は合っておらず、何か独り言を絶え間なく繰り返している。  
警察官数人がその光景を見て唾然とする。

終